

■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレース Round 6
- 主催 : オムニバスクラブ オブ カンサイ (OCCK)・鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : AASC、ARCN、ARC、チーム淀、KRHC
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2022-3003
- 会場 : 鈴鹿サーキット / レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数 / 174台
クラブマンスポーツ / 26台
FFチャレンジ / 26台
スーパーFJ / 22台
FIT 1.5 Challenge Cup / 14台
- 併催クラス : TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022西日本シリーズ第6戦 / 65台
Porsche Sprint Challenge Japan 2022 第7戦・第8戦 / 21台
- 開催日 : 2022年9月3日(土)、4日(日)
- 天候 : 晴れ・ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレース Final Round
- 開催日 : 2022年12月10日(土)・11日(日)
- 主催 : AASC
- 会場 : 鈴鹿サーキット レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : FIT 1.5 Challenge Cup、FFチャレンジ、CS2、CS、フォーミュラEnjoy
- 併催レース : FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP、MINI CHALLENGE JAPAN 2022



4日はクラブマンスポーツから決勝ヒートが開始。終盤でのトップ争いも数多く見られ、どれも見ごたえあるレースが続いた

併催クラスを含めて全174台が鈴鹿に集結! さまざまなレースでモータースポーツを楽しんだ

早くもスーパーFJが最終戦を迎える、2022 鈴鹿クラブマンレースRound6がフルコースで2日間にわたって開催されました。併催レースにTOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022西日本シリーズ第6戦、Porsche Sprint Challenge Japan 2022を行ったこともあり、参加台数は174台。フルコースが活気に包まれる、そんなシーンが多く見られました。

最終戦となったスーパーFJクラスでは、シリーズチャンピオンに最も近い森山冬星選手と居附明利選手が猛烈なバトルを展開。結果的に居附選手がトップチェッカーを受け、2位になった森山選手が2022年の鈴鹿選手権において一番乗りでシリーズチャンピオンの座を射止めました。そして、FFチャレンジはポールtoウィンを決めた松下裕一選手を追い詰めた木村翔選手がレースを盛り上げました。レース序盤、木村選手はトップをがっちりとキープ。逆転を許しましたが、期待感を抱かせる走りで盛り上げました。

参加台数65台となったのがYaris Cup 2022。応援するチームに声援を送るべく、家族や友人らも駆けつけたのかスタート前は一段と華やかな雰囲気。一方、レースでも最終盤までトップ争いがもつれ、Yaris Cupの面白さを存分に感じることができました。

第7戦、第8戦と2レースを行ったPorsche Sprint Challenge Japan、クラブマンスポーツ、さらにFIT 1.5 Challenge Cup。夏の日差しが残る鈴鹿サーキットで多彩なレースが繰り広げられ、モータースポーツの魅力に触れる2日間になりました。次戦の12月10日(土)・11日(日)はシーズン最終戦となる2022 鈴鹿クラブマンレースFinal Roundがフルコースで予定されています。



FFチャレンジクラスの#7木村翔。レジェンド、松下裕一を相手に好勝負を繰り広げた

■クラブマンスポーツ Class

ランキングトップの中里紀夫は5番グリッドからスタート。ポールシッターは大八木龍一郎だ。レースは大八木がホールショットを奪うと、中里も3番手へとジャンプアップ。さらに中里は増本千春をパスして2番手でオープニングラップを終える。先頭集団は大八木、中里、増本、山谷直樹、上岡広之のオーダーだ。2周目で、中里は大八木をオーバーテイクすると、一気にトップへ。だが、大八木もすぐさま中里をパスしていく。3番手を争う山谷、増本、上岡のバトルも激しい。中盤にかけて大八木は中里をパスしてトップへ。上岡は7周目で山谷をパスして3番手へ浮上する。大八木はトップに立ててからも、後半にかけてペースを落とさず、そのままトップチェッカー。中里とのバトルを制した。



2021年のシリーズチャンピオン、#1大八木龍一郎がポールtoウィンを飾った



1位の大八木龍一郎(写真中)、2位の中里紀夫とのバトルは手に汗握るものだった

■Yaris Cup 2022第6戦

ランキングリーダーでもある神谷裕幸がポールポジションから好発進を決める。だが、横転した車両があり、オープニングラップで赤旗中断となる。セーフティカーが導入されると、周回を残り7週の時点でレースは再開された。再開後、2番手を走る水野大が1コーナーで神谷をオーバーテイクするとトップへ。水野を追う神谷、3番手は単独で廣島嵩真が走行している。レースはマシンのコースアウトもあり、残り3周の状況で再びセーフティカーが導入される。トップを走るのは水野、続いて神谷。残り2週のタイミングでセーフティカーランが解除。水野と神谷に3番手の廣島も追いつき始め、三つ巴のトップ争いでファイナルラップを迎える。すると1コーナーへの侵入で神谷はトップへ。猛追する2番手の廣島を抑えて、神谷が勝利を収めた。



ランキングリーダーの#38神谷裕幸。苦しみながらもポールtoウィンを飾った



CVTクラスは塚原啓之(写真中)、増井大輔、目出し帽(エントリー名)の3人がトップ3に

■Yaris Cup 2022第6戦



1位は神谷裕幸、2位は廣島嵩真、3位の大木隼人も最終盤で表彰台を獲得してみせた

■Porsche Sprint Challenge Japan 第7戦

ポールポジションはMOTOKI TAKAMI、2番グリッドはすでにGT3-Iクラスのシリーズチャンピオンを決めているKEN YAMAMOTOだ。レースはMOTOKI TAKAMIがホールショット、これをKEN YAMAMOTOが追い、3番手に小林賢二、HISATEAと続く。オープニングラップを終えてGT3-IIクラスのトップは総合14番手の高木啓一郎となる。3周目で2台の接触があり、セーフティカーが導入され、残り5周から再開される。Masa TAGAとタナカ セイヤの3番手争いが激しくなり、2人が3番手を交互に入れ替わるバトルへ発展する。9周目でタナカ をオーバーテイクして Masa TAGAは3番手へ。トップのMOTOKI TAKAMIは2番手のKEN YAMAMOTOに対して5秒079の差をつけて勝利。完勝と呼べるレース展開だった。



#10のMOTOKI TAKAMIは第6戦に続く2連勝をマークした



GT3-I 表彰。勝利したMOTOKI TAKAMIは危なげない内容でポールtoウィンを決めた

■ FFチャレンジ Class

ポールポジションは松下裕一。2番グリッドは木村翔、そして林陽介、林大輔、開勇紀、森岡友和のグリッド順で決勝を迎えた。木村翔が好発進でホールショットを奪うが、2コーナーで複数台が接触。早くもセーフティカーが導入される。3周目開始のところでレースは再開されると、5周目のシケインで2番手を走行していた松下は、ついに木村をオーバーテイク。レースはその後2人によるトップ争いが続く展開になる。最後に一波乱あるかに思われたが、残り1周半の時点で再びセーフティカーが導入されることになり、そのままフィニッシュを迎えることに。レースは松下が逆転でポールtoウィン、2位チェッカーは大健闘の木村、3位は林大輔となった。



#31の松下裕一がポールtoウィン。「レジェンド」の名にふさわしい走りを披露



優勝は松下裕一(写真中)、2位に木村翔、3位表彰台は林大輔が獲得した

■スーパーFJ class

ポールポジションは居附明利、シリーズチャンピオンに最も近い森山冬星は2番グリッドからスタートする。ホールショットは好スタートの森山が奪うと居附、八巻渉と続きオープニングラップを終え、ト部和久は単独で4番手を走行する。レースの半分を終えたところで居附が森山をオーバーテイクするが、直後、別のマシンがコース外に止まったことでセーフティカーが導入される。残り3週の時点でレースは再開されると、2番手の森山は再スタート後のホームストレートのイン側から居附をパスする。2人のトップ争いは白熱したままファイナルラップへ。森山はトップの居附をパスして勝負あったかに思われたが、西ストレートで居附が逆転してトップチェッカー。2位の森山がシリーズチャンピオンを獲得、3位表彰台は八巻となった。



トップ争いは最後までもつれ、ポールポジションスタートの#39居附明利がファイナルラップで森山冬星をパスして勝利した



優勝した居附明利(写真中)。2位に森山冬星、3位は単独走行の時間が長かった八巻渉となった

■Porsche Sprint Challenge Japan 第8戦

午前中に行われた第7戦に各車がマークしたベストラップでグリッド順を決定。その結果、ポールポジションはMOTOKI TAKAMIとなった。レースはMOTOKIが好スタートでホールショットを奪い、KEN YAMAMOTO、タナカ セイヤと続く。序盤は膠着状態が続き、4番手以降はakiratea、MUSASHI、Masa TAGAの順となる。トップ2は単独になると、3番手のタナカにakirateaが迫ってくる。3番手争いに動きがあったのは9周目だ。白熱するバトルによりタナカがスピンを喫してしまい順位を落とすと3番手にakirateaが付ける。レースはフィナルラップへ。MOTOKI TAKAMIはそのまま逃げ切ると、前々回レースから数えて会心の3連勝をマーク。2位はKEN YAMAMOTO、3位はakirateaと続いた。



#10 MOTOKI TAKAMIは午前中のレースを再現するような完勝だった



GT4クラスの表彰。山本聖渚がクラス1位、横井克一郎がクラス2位となった

■Porsche Sprint Challenge Japan 第8戦



GT3-IIクラス。荻原秀樹(写真中)、AG、ヤマダヒロシの順でクラス上位に



GT3-IクラスはMOTOKI TAKAMI(写真中)が自身の好調ぶりを存分に見せつけた

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

西尾和早がポールポジション、2番グリッドは山内剛志、相原誠司郎、松尾充晃、杉原悠太のグリッド順でレースはスタート。西尾が順当にホールショットを奪うと山内、松尾、杉原の順で展開されていく。トップ2の西尾、山内が抜け出し始めると、単独で松尾が3番手を走行する。一方で激しいのが4番手争いだ。杉原を先頭に混戦となり村田竜介、相原、杉原、藤田修三らがバトルを繰り広げる。トップを走る西尾は変わらないまま、レースはファイナルラップへ。2番手を走る山内は、最後まで攻め続けるが西尾はそのまま逃げ切りに成功。2位は山内、3位は松尾が飾ることになった。



#85西尾和早は見事なポールtoウィン。終わってみれば、一度もトップを譲ることなくレースを支配してみせた



2位は山内剛志(写真左)、3位は松尾充晃。山内はトップの西尾に迫る走りだった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

FFチャレンジClassで2位表彰台。レースを大いに盛り上げた

木村 翔 選手 AUTOMAXizumi★WM・EURO



レースは惜しくも2位。それでも大いにレースを盛り上げた木村翔選手

Q: 予選は2分30秒685をマーク。2番グリッドを獲得しました。

「予選には、まずまず満足しています。自分の今の力が出せたと思う」

Q: 決勝は2位表彰台。それでも松下裕一選手を追いやり、トップを走る時間が長かった。

「今日は自分の得意な天候だったんです。それでも後半にかけて、やっぱり抜かれました。後ろからのプレッシャーもすごかったです」

Q: トップのまま逃げ切れそうな手ごたえは？

「むしろ松下選手との力の差を感じました。抜けそうなポイントでは、ぴったりとついてくるし、経験値がすごいなと思いました」

Q: 次のレースの意気込みを聞かせてください。

「12月の最終戦にはもちろん出ます。マシンは完璧なので、あとは自分次第。これから最終戦までにしっかり練習します！」